緑の地球　第177号　　2017年9月15日発行　　年6回・奇数月15日発行　　発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク
年間購読料2,000円（送料含む）定価300円　〒552-0012大阪市港区市岡1丁目5-24　小来田ビル303号　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
郵便振替　00940-2-128465　　E-MAIL：gentree＠s4.dion.ne.jp　　URL（ホームページ）　http://gen-tree.org

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

張家口市蔚県で2回目のGENスタディツアー。幅広い層の参加者が集った。

Contents

●夏の寄付のご協力ありがとうございました　Ｐ2
●蔚県の5つの花　……　Ｐ3
●ツアー日誌より　……　Ｐ4～5
●大同緑化協力25年の軌跡　……　Ｐ6～7

2017.9
177

認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送るetc.　　★あなたのご参加を待っています！

夏の寄付のご協力ありがとうございました

今年は 62 件、993,185 円の夏の寄付金をいただきました。
みなさまのご協力に感謝いたします。

おかげさまで 8 月の黄土高原スタディツアーも無事終了いたしました。張家口市蔚県でのツアーも 2 度目、まだ不慣れな面もありますが、少しずつ経験を積み重ねていきたいと思います。

夏の寄付金のご報告です。7 月 15 日以降、9 月 5 日までにお寄せいただいた金額は 993,185 円、件数は 62 件でした。ご協力ありがとうございました。昨年同期間が 855,046 円、85 件でしたので、金額は少し増えて、件数は減ったことになります。

また、4 月 1 日以降の累計は 2,934,506 円、117 件でした。昨年度の 21,135,785 円を上回っていますが、今年度予算 710 万円の 41%にとどまっており、財政状況は依然厳しい状態です。

GEN の活動はみなさまのご協力に支えられています。可能な範囲でのご支援を引き続きお願いいたします。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会
前中代表と歩く「野の道」シリーズ④
京都市洛西竹林公園を歩く

前中代表と歩く「野の道」シリーズ、第 4 回は京都市洛西竹林公園を歩きます。遊歩道を散策しながら竹や笹の生態を観察できる「生態園」や、数々の竹類を集めた「見本園」、竹の伝統工芸・歴史・文化を説明する「資料館」などを訪れます。

○日程：9 月 30 日（土）10 時～ 14 時ごろ
○場所：京都市洛西竹林公園
○集合：10 時に阪急京都線「桂」駅。駅からバスで竹林公園まで移動します。
○案内：前中久行さん（GEN 代表、元大阪府立大学大学院教授）
○持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、帽子、敷物、雨具
○参加費：500 円（保険料を含む）
○定員：20 名程度（先着順）
○申込み：9 月 27 日（水）までに GEN までお名前、連絡先、生年月日をお知らせください。GEN のホームページからも申し込めます。http://gen-tree.org/event/index.html
※小雨決行

GEN 自然と親しむ会
天王山ハイキングと ウイスキー館見学

暑さもひと段落して過ごしやすい季節、大山崎町にある天王山で秋のハイキングを楽しみませんか。ハイキングのあと、オプションでサントリー山崎蒸溜所にある山崎ウイスキー館を見学します。ウイスキー館見学をご希望のかたは申込時にお伝えください（先着順で 10 名）。

○日程：10 月 14 日（土）10 時～ 15 時ごろまで
○集合：10 時に阪急京都線「大山崎」駅
○参加費：300 円
○定員：20 名程度
○持ち物：ハイキングできる服装・靴、弁当、飲み物、帽子、敷物
○申込み：10 月 11 日（水）までに GEN 事務所へ氏名、生年月日、連絡先をご連絡ください。GEN のホームページのイベント情報欄からもお申し込みいただけます。http://gen-tree.org/event/index.html

GEN 自然と親しむ会 今後の予定

◆無煙炭化器を使った炭焼き

無煙炭化器でおこなう炭作りのほか、バーベキューも楽しみます。

○日程：11 月 25 日（土）
○場所：西宮市武庫川河原（JR 福知山線「武田尾」駅付近）

◆野間の大ケヤキしめ縄かざりつけ

天然記念物の大ケヤキ。年に一度のしめ縄かざりつけに参加します。

○ 12 月下旬
○場所：大阪府豊能郡能勢町

参加者募集

運営懇談会にご参加ください

今年も運営懇談会をおこないます。GEN の活動について広く語り合う場です。ぜひご参加ください。

◆大阪会場
○日時：12 月 9 日（土）13 時 30 分～ 16 時 30 分
○会場：大阪市立中央会館

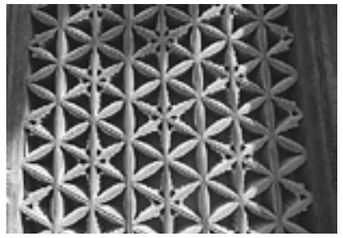
◆東京会場
○日時：12 月 16 日（土）15 時～ 18 時ごろ
○会場：立教大学池袋キャンパス
詳細は次号でご案内します。

蔚県の 5 つの花

ダイナミックな打樹花

張家口市蔚県の人たちは口々に「蔚県には 5 つの花があります」と自慢します。私は 2016 年 12 月から 17 年 4 月、8 月と 3 回の訪問で、すべて目にすることができました。

まず、打樹花。500 年の伝統があるというこの熔鉄を壁にまき散らして咲かせる花は、美しいというよりその迫力に圧倒されます。中国広しといえどもこんなとんでもないことはここ蔚県にしかなく、できる人は 4 人しかいません。元宵節の花火を買えない貧しい村人が花火の代わりに楽しんだのが起源というこの芸能、途絶えないように願うばかりです。


蔚県の寺ではこのような木彫りの花が見られる

そして窓花こと剪紙（切り絵）。中国全土で中国土産として売られている剪紙は、ほぼ全て蔚県産です。蔚県の人口は 50 万人ほどですが、剪紙産業に従事している人は 3 万人にのぼるそうです。色と形を微妙にずらした剪紙を何枚も重ねて立体感をだした肖像画や、華やかに彩色された花鳥図、数 m もある絵巻のような作品など、すばらしい芸術品です。

3 つめは彫花（木彫りの花）。蔚県の中心部にいまものこるかつての蔚州の心臓部、蔚州古城にはたくさんの社寺廟が保存されています。それらの建物を飾る美しい木彫りの花は、精緻な職人業を感じさせます。

あとふたつは実際の花です。まずは杏花（アンズ）。蔚県では果樹栽培がさかんで、花の時季には果樹園が白い湖のようになるとか。私が見たのは公園のアンズで、残念ながら湖とはいきませんでした。

最後に雪絨花。エーデルワイスのなかまです。県城の大通りに、雪絨花大街という名前がついているように、蔚県を代表する花です。8 月のツアーでたずねた空中草原で、たくさん咲いているのを見ることができました。

みなさんもぜひ、これらの花々を見に、蔚県をお訪ねください。（東川）

空中草原で見つけたエーデルワイスの花

参加者募集

GEN 関東ブランチ
スタディツアー報告会

8 月 26 日～ 9 月 1 日におこなわれた GEN のスタディツアーは無事に終了しました。ツアー参加者による報告会をおこないます。事前申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。

○日時：9 月 30 日（土）15 時～ 17 時 30 分
○会場：学習院大学中央教育研究棟 302 教室
○内容：今夏の GEN のスタディツアーに関東から参加したみなさんの参加報告（一人あたり 10 分報告の予定）
※終了後、懇親会を予定しています。懇親会から参加の方は、村松（mura_koichi@hotmail.com）まで事前にご連絡ください。

GEN 関東ブランチ 西伊豆秋合宿

関東ブランチでは、珪石採掘で植生が破壊された芝山を緑化するという事業に取り組んでいます。

強酸性の大地に無煙炭化器で焼いた炭を入れて、シカの害の少ないシキミやアセビを栽植していくというプランで、多難ではあるものの、これまでに栽培した苗が育つなどの成果を挙げています。

今回の合宿では、シキミなどの実生を採取して、ポット苗に仕立てるという作業を行うとともに、現場を視察する予定です。

また、関東ブランチ圃場では、春合宿で栽植したサトイモ・サツマイモが例年よりもしっかりと育っており、収穫が楽しみです。ぜひ、ご参加ください。

詳細は連絡をいただいた方にお送りいたします。

○日時：2017 年 10 月 27 日（金）17 時現地集合～ 29 日（日）昼ごろ現地解散
○場所：静岡県西伊豆町（宇久須）
○参加費：8,000 円（宿泊費・食費など）酒代は別途徴収
○申し込み締切：10 月 22 日（日）
○問い合わせ：上田信　ueda@rikkyo.ac.jp

ツアー日誌より ～中国の農村を旅して～

今年は 8 月 26 日～ 9 月 1 日の日程で GEN ツアー、9 月 7 日～ 11 日の日程で大阪市 RR 厚生会、9 月 8 日～ 10 日の日程でイオンリテールワーカーズユニオンのツアーがおこなわれました。今号では GEN ツアー日誌の抜粋を掲載します。

8 月 26 日（土）澤地實

飛行機は CA162 で、中国人旅行客で満席だった。中国と言うとまずは国内外を問わずどこに行っても人の量で圧倒される。そしてあのやかましさ。北京空港は 3 年振りだったが、まず出入国管理のブースが一新されており、入国者の滞留は無かった。たまたま旅客の端境い時刻だったかもしれないが。そして、税関も新しいブースが設置されていた。中国はこうした設備改善は早い。

初日は目的地（蔚県）までの移動日だが、バスで 5 時間、長くはあったが車窓をそれなりに楽しめた。

まずは高速道路の連なり。インフラの整備はしっかりしている。利用車種は圧倒的に大型貨物が多かった。物流の大動脈、また密から疎への緑の変化、高速道路の両脇はどこまでもどこまでも植樹による緑化がなされていたのも印象的だった。

途中湖の周囲広範な地域でおびただしい数の風力発電機が設置されていた。風がそれ程あるとは思えないのに結構強力に回っていたのもあれば丘の上では全く動いていないのも多くあった。程良い風の道があるのかもしれない。小山の斜面には太陽光パネル、その気になれば再エネも早い。

そして平地は見渡す限りトウモロコシの畑、農民の生活も豊かになっているようだ。

昼食は車中で弁当を支給、とあったのでどんなものが出るのか期待していたが、パンとソーセージ、小さなリンゴ也。ここは中国だ。

見ごたえ十分の蔚州博物館

当初、明日に予定されていた打樹花鑑賞が本日となった。貧しさから花火に代わる技能として考案されたという伝統芸能が壮大なショーに組み込まれていた。全く花火のような輝きがあった。

その後の遅い夕食。時間が無く美味しそうな料理も堪能できなかった。

8 月 27 日（日）河野正

本日は朝から雨。午前中は蔚県博物館参観。近年建て直したものだろうが、県レベルの機関とは思えないほど大きく充実している。

昼食後、一度部屋へもどって休息。その際、「引率」として責任を持って学習院生を数人、「超市」へ連れて行く。小さく、品ぞろえも悪い超市だが、全てが目新しい学生たちは楽しそうに買い物をしていた。

午後、暖泉鎮へ古鎮見学。都市（城市）ではなく、村や鎮が壁で囲まれた「堡」だが、これは戦乱の多かった華北に多い。太平天国の時期にも多く建てられている。

暖泉鎮は交通の要衝にあった鎮という事もあり、往時のはなやかな様子が伝って来た。当時は様々なものが交易されていたのであろう。

ここには 3 時間あまり滞在したのだが、その間に大きな問題が発生した。大雨である。滞在中に雨が強まり、最後、遼・宋の歴史についての展示を見ている間に、本格的な大雨となってしまった。中国で大雨が降ると問題になるのが排水である。排水が悪いので、水が容易にあふれ、なかなか引かない。暖泉鎮の古道も、まさに河の様に水が流れる事態となった。靴はビショぬれとなったが、乾くだろうか。

「濡れ鼠」ご一行は、その後夕食へ。今回 3 度目の豪錦酒家。昼に柳女史へリクエストを出しておいたため、餃子

作業の後のスイカの味は格別

や焼き唐辛子が出る。またこれまで 2 食、食べものの「浪費」が多かったとのことで、料理を少なめにする。中国の宴会では酒の心配ばかりされるが、実は食の方も大変である。私も農村調査を始めたばかりの頃は、文字通り「吐く程」食べさせられた。とはいえ、胃が丈夫であることが、私などが中国研究を続けられている一つの理由である。

8 月 28 日（月）山田真央

今日は午前中に飛狐峪と空中草原を見学しました。バスからの景色を見ると、日本では見られない広大な大地が広がっていて、ヤギや牛などの群れを頻繁に見ることができ、改めて中国の国土の広さと大自然を感じることができました。空中草原は標高約 2000m で、想像よりはるかに風が強く寒かったためレンタルのジャケットを借りることにしました。とても暖かくなりましたが、私のジャケットだけボタンはあるのにボタンを通す穴が無く、少し笑ってしまいました。

午後は切り絵を見に行きました。おみやげ店では福のデザインが多く、それだけでもたくさん迷ってしまい、選びきれないほど多くのきれいな切り絵が並べられていました。違うお店では体験ができるとのことで、うし年生まれなのでうしの切り絵を作りました。想像の何倍もの難しさで終わるまでに 1 時間半かかりましたが、終わった後の

はじめて切り絵の制作に挑戦

青空の下、植樹に汗を流す

達成感は凄く、売り物と同じ額縁に入れてもらい良いお土産ができました！作っている人を改めて尊敬しました。

8 月 29 日（火）呉知珉

今日はこの旅の真の目的である植林の日だった。車で 20 分程移動し、道路が舗装されていない小路に入ったところで車は止まった。降りてみると、一昨日に降った雨で川が氾濫し、道がえぐれてしまい山に登るのが困難だという判断が下された。そのかわりに、平地の松林のような場所で作業することになった。そこは、何年か前に植林した場所であるが、3 割程が枯れていた。今回は、その枯れた松を新しい苗木に変える作業をした。植林の際、重要なポイントは、苗木のビニールを必ずとってから土に埋めることだと教わった。実際に、枯れた松を抜いてみると 8 割程ビニールがついたままであった。ビニールをつけたまま植えると、根を張れず、水が根まで届かないから、枯れてしまうというお話であった。この話を伺ったとき、非常に当り前なことではあるが、植物は人間と同様に生きているんだなあと改めて実感した。植物はとてもデリケートだから、1 つ 1 つ大切に扱わなければならないと思った。7 本ぐらい植えたとき、現地の方々が取りたてのすいかを用意してくださった。真っ赤でみずみずしくて本当においしかった。おなかが痛いながらも 3 つも食べてしまった。

南天門自然植物園で記念植樹のあと記念撮影

8 月 30 日（水）大橋亮

今日は南天門自然植物園へ向かった。着いてみると昨日の高見さんに見せていただいたハゲ山のような姿はどこにも見つからなかった。本当に緑一つない山から木々でうっそうとしているこの山になったのか信じられないほどだ。またいくつも山があり、この広大な地を緑化できた GEN の人たちの技術・熱意に圧倒された。バスから下り、40 分ほどの道のりを歩いた。衝撃であったのが途中に大麻が自生しており、初めて実際に自生しているところを見た。もちろん大麻には指一本触れていない。事務所に着いて記念植樹をするため僕は苗木を運んだ。思った以上にしんどかった。植樹する場所は草がとても生えていて、まさに記念という感じだった。前回植樹した方法とは少し違い、水も使った。穴に植樹した後、水を最後に入れてあげる。植林の方法もいろいろあるんだなと思った。ただ、工具があまり足りてなくて手持ちぶさたな人が大量発生していた。

お昼ごはんをすませた後、いよいよ南天門の頂上を目指し、登っていった。木々が本当にうっそうとしていてもはやジャングルであった。松の木は痛く、ところどころ道が崩れていて、歩くのが大変だった。階段の道から外れ、横へ横へと行ったときはもう手が切り傷だらけになってしまった。なぜあの寄り道があったのかよく分からない。やっとの思いで戻ってきて、階段を昇り始めると、同じ様に松の木に攻撃されたり、虫がたくさん飛んでたり…。でも頂上へ着いたら絶景で登って良かったととても思えた。本当に一面緑緑緑で緑化されていない場所がなかった。あらためて緑化した GEN の人たちを素晴らしいと思う。そして頂上に吹く風はとても気持ち良かった。下るときになって足が笑い出し、たまにすべったりして危なかった。

8 月 31 日（木）徳田和樹

采涼山地球環境林・カササギの森は GEN が 1999 年から大同県聚楽郷と協力して植えたもの。その南斜面を見学したが、そこは典型的な南斜面であり、自然条件が悪い上に周辺住民が貧しく、植樹に適した場所とは言いがたいところらしい。それでも、人工的な北斜面を作るという中国側の技術と、マツを菌根菌とともに植えるという日本側の技術の両方を持ってして、今では立派な松林となった姿を見ることができた。

その後に行った緑の地球環境センターでは、前中代表から現地メンバーへの感謝状の贈与という感動的なセレモニーが行われ、学生の中には前中先生とともに涙ぐんでいる人もいた。記念植樹を行い、昼食で腹ごしらえをした後に、高見さんの解説でセンター内を見学。「小老樹と呼ばれるポプラも、孫名義のクレジットカードを勝手に使ってしまう老人よりは後の世代の役に立っている」という笑ってよいものか迷ってしまう冗談も挟みつつ、センター内のあらゆる植物を把握し説明してくださる高見さんと前中先生の知識量に圧倒される。

緑の地球環境センターの見学後は大同駅に向かい、手荷物の X 線検査や金属探知機など厳しい検査を受けたのち、列車の出発まで駅で待つ。アメリカで乗った Amtrak 以来の寝台列車に多少気分が上がりながらも、列車内でこの日誌を書く。この旅を可能にしてくださった全ての人に感謝！

大同緑化協力25年の軌跡

失敗の経験

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で4回目です。（高見邦雄）

1995年の大同県徐町郷

大同での25年を振り返るとき、忘れることのできないのはいくつもの失敗です。そして失敗から学び、少しは利口になり、さまざまな改善を実現して前進してきたのです。

【流された土がダムを埋める】

いちばん印象に残っているのは、大同県徐町郷での失敗です。この郷は桑干河をせき止めている冊田ダムの南岸にあります。背後（南）は龍首山で、そのふもとからダムまでなだらかな斜面がつづきます。

最初に訪れたのは1992年秋ですが、山のふもとからダムを眺めて、その光景に絶句しました。無数の浸食谷が縦横に刻まれているのです。いつも私はビデオカメラを回していたのですが、この迫力をぜひ撮影したいと思い、ピアノ線を張ってカメラを滑らせたらどうか、などと夢想していました。いまならドローンをつかえば、技術的には可能でしょう。

暑い時期の雨が土を流してこの谷を刻み、流された土は冊田ダムを埋めていきます。このダムは北京の水源にもなっているのですから、ここを緑化する意味は一目瞭然です。

【6万本のアンズを植える】

1993年に、浸食谷のところにアブラマツを植えるプロジェクトに協力しました。それが成功すると、郷の党書記の李子明さんから「斜面の畑にアンズを植えるのに協力してくれないか」という提案がありました。1週間ほど私は郷政府に泊めてもらったことがあり、彼のことを信頼していました。80haの土地に6万本を植える壮大な計画でしたが、それに同意したのです。

これを成功させれば、りっぱなモデルをつくれる、という欲がありました。

アンズを植えた後の記念撮影（1994年4月）

1994年春、日本からのツアーも参加して、アンズの植栽がはじまりました。大きな穴を掘り、堆肥をいれ、苗を植え、しっかり灌水したあと、乾燥防止のためポリフィルムでマルチをしました。苗の上部を切り戻した切り口にペンキを塗って保護しました。これほどていねいな作業はその後も経験したことがありません。

そのかいあって、その翌春には開花するものがでてきました。李子明さんは私に話しました。「来年は少しだけ実をつけさせたいが、どうでしょう？ここの農民は果樹栽培の経験がないので、ほんとうに収穫できるかまだ自信がない。実がなるところをみれば確信がもて、管理にも力がはいる」。私は即座に賛成しました。

【よく育ったアンズが全滅】

1995年は環境林センターの立ち上げなどで忙しく、徐町郷に行ったのは翌年1996年の夏でした。驚いたことに、あれほど育っていたアンズが姿を消していました。郷の幹部の言い訳からわかったのは、春先にノウサギの食害があり、さらに夏にアブラムシが大発生したことです。

地元の人が予想もしなかったことです。なんとかしたいと思っても、規模が大きすぎて対応できません。地元の能力を超えるプロジェクトはかならず失敗することを私はここで学びました。それ以後は、小さく出発して、そこで経験を積んでから、徐々に拡大することを決めました。

より大きな問題は、アンズは収穫できるまでに4年を要することです。アワ・キビなどの穀物を間作しますが、それでも収穫が減り、農民の意欲が落ちます。荒れ地を開墾したり、農地のなかでも痩せた畑をつかい、影響が少なくなるようにしました。

【幹部の人事異動に泣かされる】

失敗の背後には、幹部の人事異動がありました。私は李子明さんを信頼しましたが、後任もそうだという保証はありません。新しく張家口市蔚県ではじめて、やはり悩ましい問題です。

ニセ苗の問題もありました。アンズの苗は当時、河北省から買っていました。そのなかに接ぎ木に失敗し、台木の芽が伸びたものが混じっていたのです。経験のない農民は、気づかないまま植えますが、葉が広がるとそのちがいがわかります。ニセ苗は実がなってもお金にならない、そう考えて農民↙が自分で抜いてしまうこともあったのです。

マツの根をかじるネズミの害を訴える李子明さん

こういう厳しい環境だからこそ、いい苗でなければならないのです。日本に苗半作という言葉があるように、苗の善し悪しが結果を大きく作用します。1995年から南郊区平旺郷に建設した環境林センターの大きな任務が苗作りになりました。

徐町郷のアンズが失敗したとき、私は立ち上がれないほどのショックを受けました。でも、なんとかそのなかから教訓をえて、その後の事業に活かしてきました。と書けば簡単ですが、実際には長く苦悶し、中国側の責任者、祁学峰と繰り返し話し合い、どの意見がどちらから先に出たかもわからないくらい練り上げた結果でした。

2011年春から大同県周士庄鎮に新しい協力拠点・センターの建設に取り組みましたが、その過程で私はなつかしい顔に出会いました。李子明さんです。彼も私のことをよく覚えていてくれました。大同県総工会の主席になっており、その後の私たちの活動を全力で応援してくれたのです。

黄土高原史話〈84〉

象徴としての永寧寺（下）

谷口 義介（GEN会員）

自分を帝位につけてくれた爾朱栄に、孝荘帝は頭が上がらない。

使持節中外諸軍事大将軍・開府北道大行台・都督十州諸軍事大将軍・領左右太原王の位をあたえ、栄の娘を容れて皇后に。さらに、もとの官位はそのままとして、柱国大将軍・録事尚書事を加える（528年4月）。

つまり、山西省朔県で博陵郡公に封じられていた遊牧系の酋長は、中原に打って出て、今や軍事・政治のトップに立ったわけ。

じっさい、その能力はあったとみてよい。

北魏をゆるがした大動乱、いわゆる六鎮の乱の終息後、その残党数十万をひきいた葛栄が、528年8月、洛陽に進攻してくると、爾朱栄は各所に伏兵を置き、奇策をもちいてこれを破る。そして降伏した者にはその去就にまかせ、才ある者は召しかかえるという措置をとり、残党を消滅させた、等々。

これより先、前回述べた「河陰の変」の惨劇を知って、孝荘帝の従兄・北海王元顥は、北魏と対立する南朝・梁にのがれていたが、梁の武帝の支援をうけて、1年後の529年5月、北進して洛陽に入城。

「永安二年（529）五月、北海王の元顥は再び洛陽に入り、この寺〔永寧寺〕に陣を構えた」（『洛陽伽藍記』巻一「城内」）。

これに対応して爾朱栄は、いったん帝を擁して黄河を渡り北に移るが、体勢を立て直すや、同年7月、甥の爾朱兆に命じてひそかに渡河させ、元顥の軍を打ち破る。ふたたび梁に頼ろうとした元顥は、落ち武者狩りにあって落命し、首は都に送られた。

同年7月20日、孝荘帝は洛陽に帰還。栄は、もとの官位はそのままに、天柱大将軍を加えられる。つまり位人臣をきわめたわけで、よくあることだが驕りたかぶり、勝手気ままに賞罰をおこなう。

これにはさすがの帝も腹にすえかね、9月25日、皇子誕生と言いふらし、栄がお祝いに参内したところを自ら斬った。百戦錬磨の武人にしては、脇が甘かったというべきか。

しかし、爾朱一族は健在で、栄の従弟・爾朱世隆は山西に退いて晋陽に拠り、爾朱兆に命じて洛陽を攻めさせる。

「永安三年（530）、逆族爾朱兆は、帝をこの寺〔永寧寺〕に幽閉した」（同上）。

帝が幽閉されたのは永寧寺三門の楼上で、吹きさらし。折から厳寒の季節とて、凍え死にしそうになったという。12月、晋陽に護送され、その地の三級寺でくびり殺された。

このように永寧寺は北魏末の動乱の重要スポットとなっていたが、なお続く大混乱のさなか、

「永熙3年（534）二月、この塔は火災で焼け落ちた。・・・

最初、火は塔の第八階から、夜明けに噴き出したのであるが、そのとき雷雨のため一天掻き曇り、あられまじりの雪も降り出した。市民も僧俗も一斉に火を見に集まり、悲しみの声が都じゅうを揺り動かした。そのとき三人の僧が火中に飛びこんで自殺した。火は三月たっても消えず、地下の基柱にまで火をはいって、一年たってもくすぶり続けていた」（同上）。

おそらく雷が落ちたのだろう。

かくして、さしも壮大・華麗を誇った永寧寺も、わずか15年余りで炎上した。

その年の「十月、都は鄴に遷った」と『洛陽伽藍記』の著者は記す。鄴は北魏のあと、東魏政権が都にしたところ。

永寧寺の焼失は、北魏王朝の滅亡を象徴する出来事だった。それと同時に、仏教都市の崩壊をも。

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

チャイナフェスティバル

日中国交正常化45周年を記念し、芸能、観光、食などさまざまな角度から中国の文化を紹介するイベントです。

○日程：10月21日（土）～22日（日）10時～19時※雨天決行　荒天中止
○開催場所：代々木公園イベント広場（東京メトロ千代田線代々木公園駅から徒歩7分）
○入場：無料
○主催：チャイナフェスティバル2017実行委員会／中華人民共和国駐日本国大使館
○後援：中国側：中国国家観光局、北京市、中日友好協会、在日中国企業協会、中国文化センター、全日本華僑華人連合会、東京華僑総会
日本側（予定）：外務省、経済産業省、文化庁、観光庁、東京都、川崎商工会議所
○問合せ：チャイナフェスティバル2017実行委員会事務局（東京都中央区日本橋茅場町2-14-5石川ビル5F（株）アイエス内　tel. 080-4679-0699　e-mail：info@chinafes.net）

大阪産業大学孔子学院 中国経済シリーズ講座

中国経済についてさまざまな視点からお伝えする1回完結の講座です。

○日程：10月2日『中国農業の供給側構造改革と通商問題』田嶋俊雄氏／10月23日『20世紀東アジア経済の戦前と戦後：帝国・植民地・冷戦・開発』湊照宏氏／11月21日『中国の自動車産業の三国志』李澤建先生／12月22日『国境を超えるIT技術者：日本向けソフトウェア開発のアウトソーシングのその後』古谷眞介氏
○時間：18時30分～20時30分
○会場：大阪産業大学梅田サテライトレクチャールームB
○申込み：電話、メール、ファクスで下記まで。大阪産業大学孔子学院事務局（〒530-0001大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル19F大阪産業大学梅田サテライトキャンパス内
tel. 06-6442-5784　fax. 06-6442-5794
e-mail：info@osu-confucius.jp　URL http://www.osu-confucius.jp）

グローバルフェスタ JAPAN 2017

ステージや体験イベントを通じて国際協力の理解を深めるイベントです。

○日時:9月30日（土）～10月1日（日）10時～17時（予定）
○会場：お台場センタープロムナード
○入場：無料
○主催：グローバルフェスタJAPAN 2017実行委員会
○共催：外務省、JICA、JANIC
○問合せ：グローバルフェスタJAPAN 2017実行委員会事務局（〒107-0052東京都港区赤坂2-18-14赤坂STビル4F　tel. 03-3505-2235　fax. 03-3585-6671　e-mail：info@gfjapan2017.